

街歩きと地図と公共データ -京都市明細図の経験から-

Urban Data Challenge 2019
「生活・文化・地域アーカイブ」Webinar

2019年10月3日

福島幸宏

東京大学 大学院情報学環 特任准教授

fukusima-y@iii.u-tokyo.ac.jp

<https://researchmap.jp/fukusima-y/>

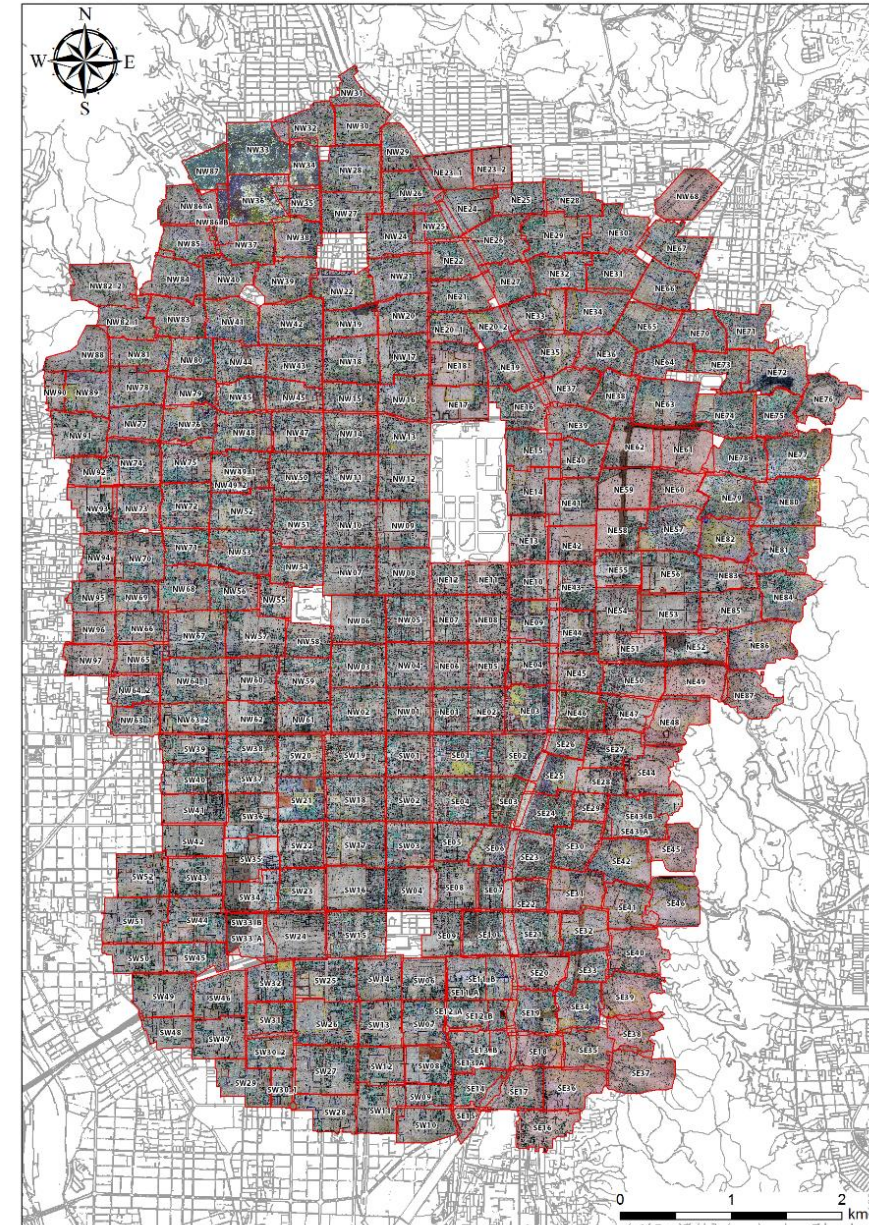
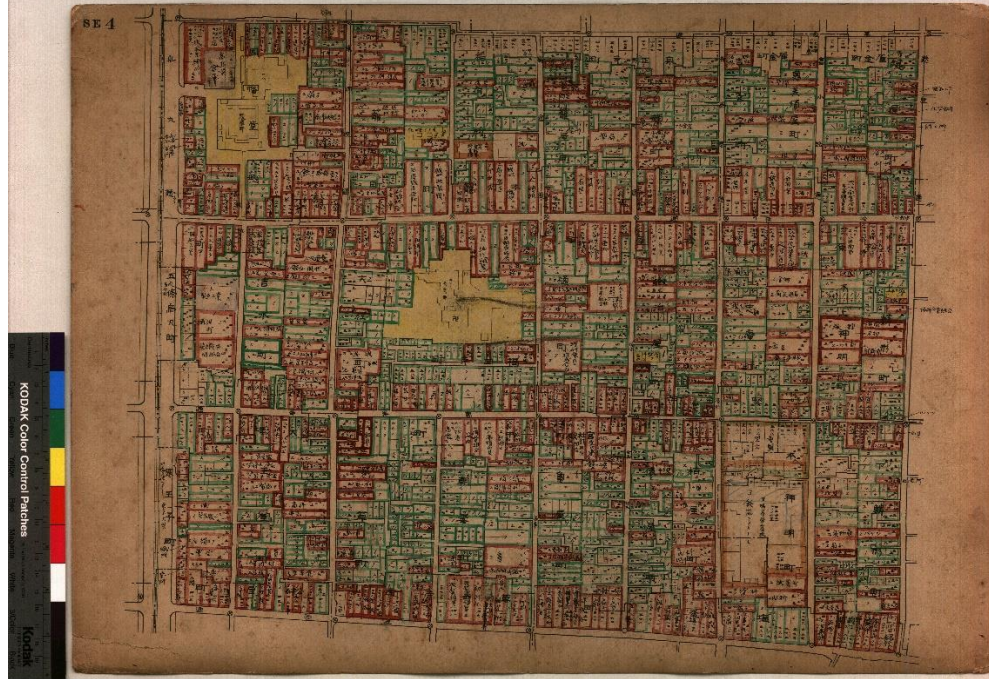
自己紹介

- もともと日本近現代史を専攻
 - 高知県出身・島根大学・京都府立大学大学院・大阪市立大学大学院
 - 神社史、地域社会に関心／自治体史調査・フィールドの調査を経験
- 京都府職員時代
 - 京都府立総合資料館 2005年4月～2015年3月
 - 京都府立図書館 2015年4月～2019年3月
- その間に関わったこと
 - 京都府行政文書（重要文化財）の管理運用 → 20世紀以降の紙資料で初の重文指定
 - 戦時期・戦後の行政文書の公開 → 京都の戦時期／占領期研究の進展
 - 文化庁 指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー修了 → 学芸員にとっては重要な研修
 - 「[京都市明細図](#)」の公開 → 京都の街歩きの基盤
 - 「[東寺百合文書（国宝）](#)」のweb公開 → CC BYで公開／Library of the Year 2014大賞受賞／世界記憶遺産に
 - 京都府立図書館サービス計画策定 → 常に新しい取組を行うことを宣言／評価基準を検討
 - 都道府県図書館の横断検索システムへの超高速化 → カーリルのシステムを導入
 - [デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会](#)
[メタデータのオープン化等検討ワーキンググループ構成員](#) → ジャパンサーチへ
 - 京都府立図書館貴重書コレクションの構築 → IIIF+DOI+CC0 の組み合わせは国内初では？
- 現在
 - 東京大学 大学院情報学環 特任准教授
 - デジタルアーカイブについてMLAから幅広に考えていく立場／「大同団結」がスローガン

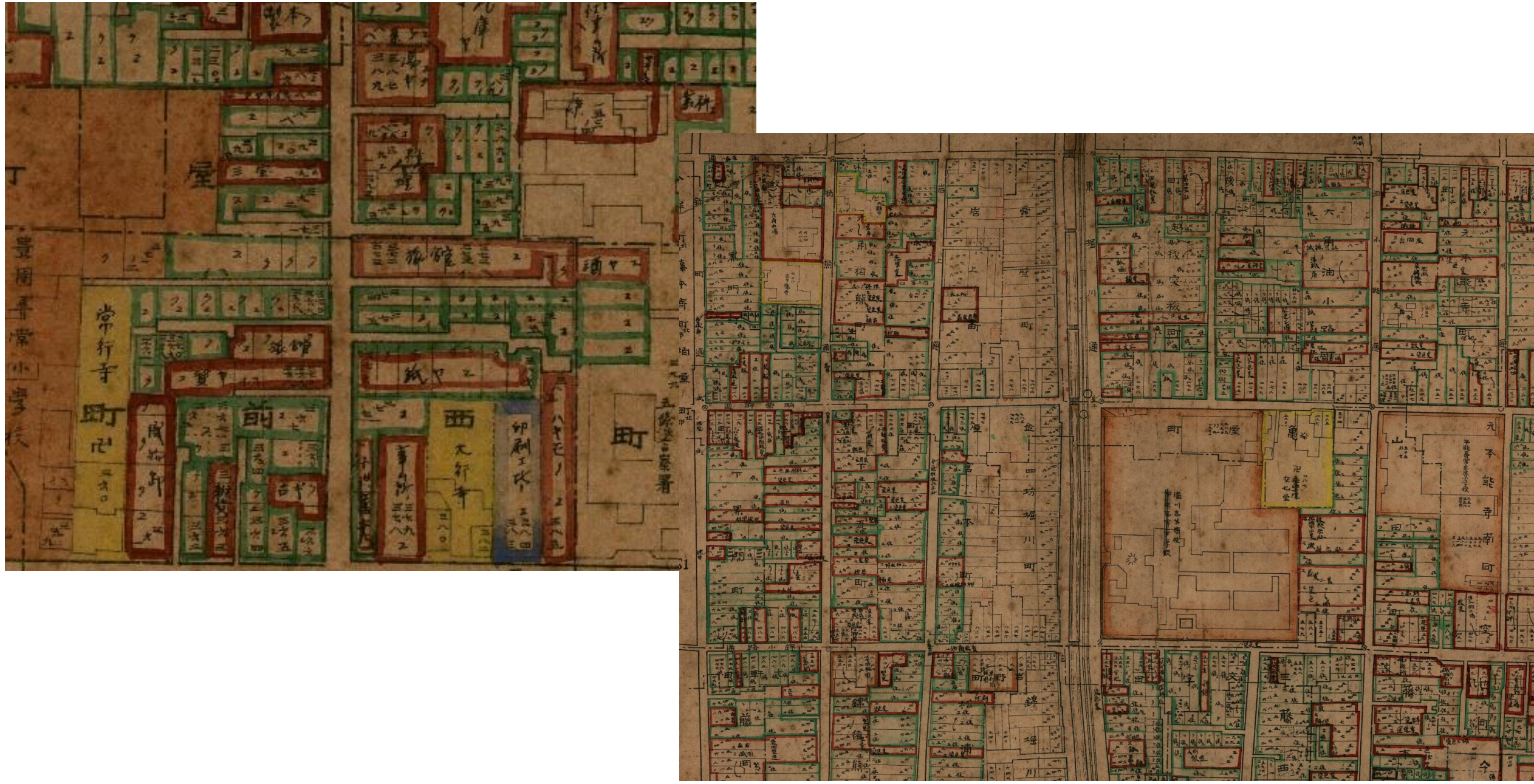
京都市明細図とは

- 1927年に大日本聯合火災保険協会が作成
 - 戦後(1951年頃)まで数度の訂正・加筆／京都府職員が都市計画に利用か
 - この時期から世界中の都市で作成された火災保険図(fire insurance map)の一種
 - 点数:291枚(図面286枚、表紙・索引図5枚／1点は索引のみか、だとすると285枚)
 - 縮尺:1/1200／1枚の大きさ:ほぼ38cm×54cm
 - 1918年(大正7)年合併の市域が対象 ほぼ北山通・東山山麓・十条通・西大路に囲まれる範囲
 - 彩色・書込は1950~1951年ごろか → 現代京都の直接の起点となる時期
- 確認されている3セット
 - 2010年秋に京都府立総合資料館(現京都学・歴彩館)版を「発見」・公開
 - 2015年に長谷川家住宅(東九条)から作成当初の状態の版が出現
 - 2017年に京都市歴史資料館版を確認
- 読み方
 - 赤は商業施設／緑は住宅／茶色は学校などの公共施設／黄色は寺院や神社などの宗教施設
 - さらに商業施設などについては店舗名等、建物の階数も書き込みあり
- 総合資料館版は現代京都の起点になった時期を反映
 - 京都は原子爆弾の標的とされていたために、大きな爆撃を受けず
 - 1944年以降、来るべき空襲に備え、延焼を防ぐために建物を取り壊し、最終的に2万戸
 - 跡地は大きな幹線道路や公園に。書き込みがあった時期は、まさにその都市計画の検討時期

京都市明細図とは



京都市明細図とは



まいまい京都とは

- 京都を代表する街歩きプロジェクト
 - 「まいまい」:くるくる回るさま。また,うろうろするさま(三省堂 大辞林 第三版)
 - 15人程度の小規模／狭い地域を2時間から3時間程度
- データ(2017年12月段階:古いですが)
 - 2011年3月に開始
 - 2,559回、41,806人が参加／ガイド346人
 - 当初は京都の街の住人がガイドをするというコンセプト→2012年・2013年ぐらいから研究者が参加
- 非常に多様なコースの内容
 - 地域の暮らしや風習を対象にしたもの／わずかな土地の高さ低さにこだわったもの／建物や土木建築にこだわったもの、など
 - 共通しているのは、どのコースでも地図は重要な要素
- 参加者層
 - 30パーセントほどの登録者が京都に一泊程度の旅行をしないと参加できない地域
 - このために京都に来て、2日で4コース参加する人も
 - 70パーセントほどがひとりで参加
 - 街を歩くこと自体を目的
 - 「ありきたりの京都」(Kyoto in Stereotype)に飽きてしまって、京都をより深く、多面的に知りたい人々が参加者層

まいまい京都とは



おひとり様
での参加

70.8%

2012年3月～2018年1月



参加者登録
されている方のお住まい



2017 年 12 月現在



上木屋町 (二条~御池)



- 角倉了以と高瀬川。
- 🔦 木屋町通りの北端。
- 🔦 上橋本町と大阪町＝上木屋町。
- 近世來の名所 ⇒ 明治期以降は「粋」を代表する街に。
- 📍 庶民街としての上木屋町。
- ※ 強制疎開と「おそめ会館」。



報告者のガイド経験から

- ガイド経験
 - 2012年10月からガイドとして18回参加(10月と11月(上野!!))
 - そのほとんどが京都市明細図を全面的に活用:3コースを開発
- ガイドの実際
 - 京都市明細図の性格とその魅力を伝えることを目標
 - 参加者には最低限の解説をつけたコピーを配布／タブレットなどでデジタル画像を提示／参加者も自らのデバイスでデジタル画像を参照
 - ポイントポイントを説明し、2時間程度のコース
- 繰り返しによる深まり:「京はま稻荷」の例
 - この街歩きプロジェクトは、ガイド側に地図の読みを深めることを求める
 - 「証券街」としての四条烏丸の北東部分
 - 20世紀初頭から後半まで、京都における証券取引の中心地
 - 現在は大きなデパートがあり、その周辺に飲食店がならぶ
 - 当初、2012年から2014年ぐらいまで、ここの説明は一般的な知識として説明
 - 私も平板な説明と感じる／参加者からのアンケートで、ここの場面に触れたものはなし
 - 「京はま稻荷」というポイント
 - 2015年のコースを準備する段階で、普段は人が入らないデパートのトラックヤードの前に小さな神社を確認 → 明細図にも記載が!
 - 京都の証券取引関係者がその商業的成功を祈るために建立、長く証券会社によって管理
 - 「京はま稻荷」をコースに組み込み説明することで、周辺の小規模な証券会社用の建築や、いまでも残る証券ビルも説明可能に
 - 地域のイメージを重層的に提示でき、参加者からの反応も多くなる(他にも参加者から多くの高度で貴重なフィードバックあり)
 - 現在は…
- 「京都市明細図」の現在
 - 街歩きへの活用以外にも、都市計画研究、近代建築研究、花街研究などにひろく活用
 - いまや京都研究の基礎資料

報告者の経験から



成功の要因としての公共データ化

- 公開の時系列
 - 2010年09月:京都府立総合資料館の書庫で蔵書点検中に確認
 - 2010年12月:最低限の目録で公開:報道等により大反響。閲覧・複写が殺到
 - 2011年01月:デジタル化作業開始
 - 立命館大学の機材を利用し、500dpiでスキャニング
 - 2011年03月:閲覧室でのカラープリントとデジタルデータ利用開始
 - 2011年07月:web公開(京都府立総合資料館「京の記憶ライブラリ」所載)／さらにGoogleマップ上にマッピングして公開
 - 2012年03月:「京都市明細図オーバーレイマップ」公開 → 「近代京都オーバーレイマップ」へ
 - 幾何補正により位置情報付与。接合作業も
 - 2012年03月:総合的な位置づけをした論考を公開
- 座組み
 - 立命館大学グローバルCOE「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」歴史地理情報研究班と京都府立総合資料館の連携(京都府と立命館大学の包括協定に先行)
 - デジタル化、GIS化は立命館大学が全面的に行う
- 延伸活動
 - 積極的な取材対応と研究者へのリーチ
 - 「まいまい京都」への参画:参加者のみならずガイドさんにも宣伝
 - 口頭では「自由にがんがん使ってください」などと口走る → 現在はCC BY(2.0)を明示
- 大事なこと
 - やりながら考える／どうすれば使ってもらえるかを考える
 - 資料をプロデュースするという視点
 - 権利関係への理解と整理
 - 限られた条件のなかでのいくつかの思い切り

参考

- 立命館大学アート・リサーチセンター．“近代京都オーバーレイマップ”．
<https://www.arc.ritsume.ac.jp/archive01/theater/html/ModernKyoto/>, (参照 2019-10-03)
- 京都府立京都学・歴彩館．“京の記憶アーカイブ 京都市明細図”．
<http://www.archives.kyoto.jp/websearchpe/list/;jsessionid=A6E70A8738547A84936DDC99DC9B61E1>,
(参照 2019-10-03)
- まいまい京都．“まいまい京都とは”．<https://www.maimai-kyoto.jp/about/>, (参照 2019-10-03)
- タ刊京都新聞社編1966『戦後京の二十年』（タ刊京都新聞社）
- 松尾尊兌1978「敗戦直後の京都民主戦線」『京都大学文学部研究紀要』18（松尾2002『戦後日本への出発』（岩波書店）に収録）
- 京都民報社編1988『戦後京都のあゆみ』（かもがわ出版）
- 立命館大学産業社会学部鈴木良ゼミナール1991『占領下の京都』文理閣
- 井ヶ田良治・原田久美子編1993『京都府の百年』（山川出版社）
- 赤澤史朗1996「占領軍と京都(一)」『立命館法学』250
- 今まど子1998「京都にクルーガー図書館があった」『紀要 社会学科』8（中央大学文学部）
- 西川祐子2017『古都の占領－生活史からみる京都1945－1952』（平凡社）
- 福島幸宏2012「「京都市明細図」を読む－いくつかの素材の提示として」『メディアに描かれた京都の様態に関する学際的研究 平成23年度京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）研究成果報告書』
- 福島幸宏2013「京都府立総合資料館所蔵の占領期行政文書と地図について」『アリーナ（特集 占領期京都を考える）』15
- 近代京都プロジェクト2016『近代京都の絵図・地図』（佛教大学総合研究所）